

殖二小の子ども達とともに

伊勢崎市立殖蓮第二小学校 学校支援センター「うえにの森」

代表 ボランティアリーダー 茂木 公子

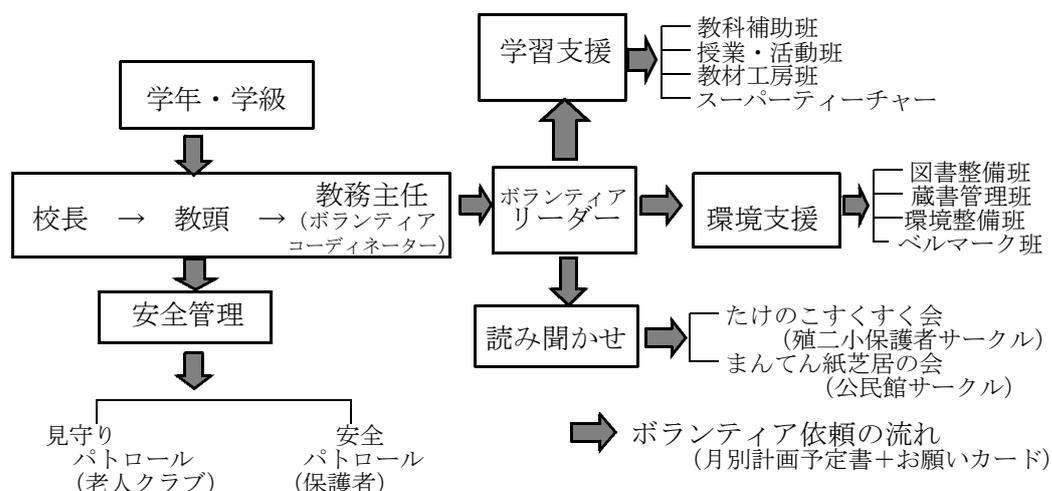
1 はじめに

一昨年、創立30周年を迎えた殖蓮第二小学校。11月1日現在の児童数は、460名、17学級の中規模校です。殖二小の特色の一つとしてあげられることに外国籍児童の存在があり、その割合は、全校児童の12%をしめています。

私がこの殖二小のボランティア活動に参加を始めたのは、PTAの本部役員を引き受けた平成15年度からです。その翌年から殖二小が、3か年計画で文部科学省の委託を受け、「地域子ども教室」を開設したことを契機に、PTA本部役員として本格的に子どもたちのかかわり合いが始まりました。そして、平成17年度からは、この活動に参加していた地域の方々や保護者数名とともに、低学年の生活面を中心にお手伝いする「ボランティア」として活動を始めました。また、平成18年度には、殖二小が県教育委員会より「地域の教育力有効活用推進事業」のモデル校指定を受け、嘱託員とともにボランティアセンターの運営や、学校支援ボランティアの活用の推進にもかかわるようになりました。指定が終わった現在も、伊勢崎市の学校教育構想に基づいた「地域の学校いきいきプラン」のもと、170名を超えるボランティアの仲間とともにボランティア活動を行っています。

2 学校支援ボランティアセンター「うえにの森」の仕組み

平成19年度に、学校支援ボランティアセンター「うえにの森」として活動を始めてからは、次のような仕組みを作り、ボランティア活動をしています。



学年や学級の先生方からのボランティアの依頼は、コーディネーターの教務主任の先生がまとめ、「うえにの森」に届きます。その依頼を各班に割り当ててボランティア活動をお願いするのが、ボランティアリーダーの私の役割になります。初めの頃は、自分で依頼に応じることも多かったのですが、協力してもらえるメンバーが増えてきたこともあり、今は、学校とのパイプ役としての活動が増えてきています。

3 主な活動

< 1 学期 >

私たちの活動は、入学式の日のお手伝いから始まります。入学式に出席してくださる地域の方の接待や会場への案内、新入学児童の受付のお手伝いが主な仕事です。入学式では、翌日からの下校路のコース分けがあり、地域に詳しい私たちボランティアが保護者の方々に登下校の道をアドバイスすることも多くあります。

また、入学後3日目から始まる給食の時間には、配膳のお手伝いや指導補助にも入っています。新しい環境に一日も早く慣れるよう生活面を中心にお手伝いしています。

5月になると、各学年の活動が活発になります。2年生では、野菜の苗うえ、5年生では米作りが始まります。この二つの活動では、地域の農家の方に講師をお願いして、スーパーティーチャーとして活動していただいています。野菜作りは、収穫するまでのおよそ半年の間、継続的にお世話になっています。米作りは、

粳まきから田植え、稲刈り、脱穀、粳すりまで継続的にお世話になります。特に子ども達が休みに入ってしまう夏の間は、田んぼの管理をお願いしています。

6月になると、高学年の家庭科の活動支援や、低学年の水泳指導の着替え支援の依頼が入ってきます。調理実習や裁縫実習では、大人の目が複数あるので、多くの子ども達に声をかけることができます。また、水泳指導では、授業後の着替えが大変です。指導されて

いた先生方が、着替えを済ませて教室に戻られるまでの間、教室は子ども達だけになってしまいます。そこで、私たちボランティア1～2名がその学年の廊下まで出向き、子ども達の着替えを見守っています。



6月後半から7月は、1学期のまとめということで、どの学年でも学習に一段と力が入ります。この時期になると、問題プリントのまる付けボランティアの依頼が多くなります。担任の先生方からは、私たちボランティアがまる付け支援に入ること、「子ども達はよりたくさん問題に挑戦できるし、私たちは、よく分からない子ども達に教える時間を多く取ることができる。」といった言葉もいただいています。

<夏休み>

夏休みになると、伊勢崎市では、どこの学校でも、10日間程度の「夏休み勉強塾」が開かれます。殖二小では、今年ものべ3,400人を超える子どもたちの申し込みがありましたが、夏休み中は出張に出かける先生



も多く、まる付けボランティアの依頼が特に多くなります。昨年からは、東京福祉大学の学生さんの応援もあり、のべ50名を超えるボランティアが活動しています。また、今年は子ども達がプールに入っている時間を使って、図書室の蔵書調べや教室にある学級文庫の冊数調べも行いました。

<2学期>

2学期が始まると、運動会の準備が本格的に始まります。運動会で使う手具作りは、各家庭にお願いすることも多かったのですが、ここ数年は、私たちがお手伝いしています。昨年は、低学年の手具づくりを、今年は中学年の「たすき」づくりをお手伝いしました。3・4年生150人分の「たすき」づくりには、ミシンがけの得意な保護者や地域のおばあちゃんがボランティアとして活動してくださいました。

運動会当日には、子ども達の背中にたすきがけをするお手伝いがありました。これは、ボランティアに登録している保護者の方々が、教え役になり、学年の保護者が多数協力してくださいました。



運動会が終わると、遠足シーズンがやってきます。殖二小の2年生は、電車とバスを乗り継いで「ぐんまこどもの国」へ出かけます。伊勢崎駅でバスを降りると、一人一人が切符を買って改札を通るので、私たちボランティアは、券売機の前でスタンバイします。子ども達が「東武、子ども、一人。」と言いながらボタンを押し、切符を購入できるように見守ります。全員が改札を通るのを見届けると自分たちも改札を通り、一緒に電車に乗り込みます。電車内では子ども達の安全を見守り、太田駅で改札を出るところまで見届け、

伊勢崎駅へ戻ります。これでこの日のボランティアは終了になります。春にも校外学習や町探検の安全確保のお手伝いをしていますが、半年の間に子ども達が成長していることを私たちが感じる事ができる時でもあります。

11月は実りの秋。春に植えたさつまいもの収穫や稲刈りのシーズンです。スーパーティーチャーのみなさんにお世話になりながら収穫をし、さつまいもパーティーや飯盒炊きをして収穫を祝います。



スポーツの秋、芸術の秋でもあるこの時期は、体育や図工の時間のお手伝いも増えてきます。1年生の初めての跳び箱学習では、跳び箱の出し入れのお手伝いや練習の見守り、初めての絵の具では、流しの使い方の指導などのお手伝いもしています。

2学期もまとめの時期になると、まる付け支援の依頼が多くなります。学習支援班はボランティアの仕事ができる人が限られがちなので、どうしても人数が少なく、協力できる日が限られてしまうのが残念です。



< 3 学期 >

殖二小では、1月の末から2月末までの約1か月間、「冬の室内遊び」という活動を行っています。地域のお年寄りのみなさんを講師に迎え、20分休みや昼休みに昔ながらの室内遊びをしています。この活動では、4年生以上の子ども達がキッズボランティアとしてこの活動に加わり、低学年の子ども達の面倒を見ながら一緒に遊んでくれています。キッズボランティアというのは、ボランティアセンターの呼びかけにより集まってくれた子どもたちによるボランティア活動のことで、この他に1年生の牛乳パックの回収と解体、一輪車の空気入れなどもしています。

3月になると、児童会が主催して「ありがとう集会」をしてくれます。ボランティアに参加して下さっているボランティアのみなさんを体育館に招待し、映像と児童の作文でボランティアのみなさんの日頃の活動の様子を紹介し、プレゼントを贈るという手作りの会です。



また、ありがとう集会の後には、学校支援ボランティアセンター主催で「ボランティア交流会」を行っています。この会は、殖二小のボランテ

ィア活動に参加している他の団体との交流を主なねらいとしています。情報の交換だけでなく、学校への要望等、日頃から感じていること等も遠慮なく話していただいています。普段は、全く別の時間帯、別の場所で活動しているみなさんの集まりなので、「お互いのことを知るよい機会だった。」といった感想もいただいています。

地域の老人会が6団体87名、保護者33名、地域の方々42名、学生15名、計177名で構成されている殖二小の学校支援ボランティアは、この他にも様々な活動をしています。

ベルマーク班によるベルマークの回収は、学校支援ボランティアセンターが開設された当初から続けている活動の一つで、百科事典（Wikipedia）の購入を目標に活動しています。また、平成17年度に保護者に呼びかけ、今年で5年目を迎えた読み聞かせグループ「たけのこすくすく会」は、毎週金曜日の朝、低・中学年の子ども達のために読み聞かせをしています。また、外国籍児童への日本語指導や生活指導の補助、特別支援学級の活動支援、教材作りのお手伝いは、年間を通して行っています。そして、昨年からは活動を始めた教材工房班は、先生方の依頼に応え、「かけ算九九カード」や「四字熟語カード」、お店やさんごっこの商品や、「お楽しみボックス」などさまざまな教材作りを担当しています。



4 まとめ

ここに紹介した活動は、殖蓮第二小学校の学校支援ボランティアの活動のほんの一部にすぎません。学校支援ボランティアセンター「うえにの森」は、産声を上げて3年目に入り、メンバーも増え、組織化もされてきています。「ボランティアの心得」をつくり、その趣旨を理解していただいたり、交流会を開いたりすることで、ボランティア同士の理解も深まってきています。また、子ども達の間にもボランティア活動への意識の高まりが感じられます。

しかし、人数が増え、依頼が増えれば増えるほど、人の動きは複雑になり、掌握が難しくなってくるのも事実です。学校が、子ども達が、私たちに何を求めているのか。そして、私たちに何ができるのか。これからも学校側との連絡を密にしながら、さらに充実した活動ができるように依頼方法や組織作り、活動内容などを工夫していくことが大切だと思います。

私たち殖蓮第二小学校の学校支援ボランティアは、「できる時に、できる人が、できることをしよう！」を合言葉にこれからも、殖二小の子ども達のために活動を続けていきたいと思えます。